

動詞「のびる」の多義構造

李 澤 熊

1. はじめに

動詞「のびる」¹⁾は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の1つとなっている。しかし、「のびる」は多様な意味を担っている多義語²⁾であるため、その学習指導方法というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、「のびる」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「のびる」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性(多義構造)を明らかにする。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

さて、靱山(2001: 33)は、「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、多義語分析の課題として「複数の意味の相互関係の明示」を提案している。また、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。本稿では、「のびる」の複数の意味の関連性を比喩の観点から考察する。なお、それぞれの定義は靱山・深田(2003: 76-87)、靱山(2010)に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。

例) 外見の類似性に基づくメタファー：「トンボ」という語には、〈グラウンド整備の道具(の一種)〉という意味もあるが、この意味は、この道具が、昆虫の

「トンボ」(「トンボ」の本来の意味)の形に似ていることに基づくものである。つまり、外見の類似性に基づくメタファーと考えられるものである。

抽象的な類似性に基づくメタファー:「故障」とは本来〈機械などが正常に機能しなくなること〉であるが、「肩の故障で、今シーズンを棒に振ってしまった」というように、「人間」に関して使われる場合もある。この場合の「故障」は〈スポーツ選手などの体(の一部)が正常に機能しなくなること〉である。この新しい意味は、〈正常な機能が果たせなくなること〉という本来の意味との共通点(つまり、抽象的な類似性)に基づくメタファーと考えられるものである。

シネクドキー:より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。なお、より一般的な意味とは、相対的に外延が大きい(指示範囲が広い)ということであり、より特殊な意味とは、外延が小さい(指示範囲が狭い)ということである。

例)「人」はより一般的な意味としては概略「人間一般」であろうが、「人に頼ってはいけない」における「人」は〈自分以外の人間〉を表し、「政界に人なし」における「人」は〈優れた人間〉を表している。つまり、いずれの場合も、「人」という語が〈人間一般〉という意味よりも特殊化された意味で使われていることになる。

メトニミー:2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩³⁾。

例)空間における隣接:「黒板を消す」という場合、〈黒板〉と〈黒板に書かれた文字〉が隣接していることに基づいて、本来〈黒板〉を表す「黒板」という形式を、〈黒板〉と隣接している〈黒板に書かれた文字〉を表すのに用いる。

時間上の隣接性:「この問題を前にして、頭を抱えてしまった」における「頭を抱える」は、〈困り果てる〉といった意味である。「頭を抱える」という表現でこのような意味を表せるのは、私たちは、困り果てるという精神状態のときに、頭を抱えるという動作をする場合があるからである。つまり、〈困り果てる〉という精神状態と〈頭を抱える〉という動作が同時に生じることに基づき、本来は動作を表す「頭を抱える」という表現で、〈困り果てる〉という意味も表していることになる。

原因と結果の関係:「Aさんは目に見えて上達した」における「目に見えて」という表現は、本来は〈視覚で捉えられる〉ことを表すが、ここでは〈はつき

りとわかるほど〉という意味である。「目に見えて」がこのような意味を表せるのは、視覚で捉えられたのであれば、はっきりとわかると考えられるからである。つまり、〈視覚で捉えられる〉ことが原因であり、〈はっきりと分かる〉ことが結果であるという関係にあり、「目に見えて」は、本来は原因を表すが、メトニミーによって結果を表していることになる。

さらに、靱山 (2001, 未発表) は、「多義語の複数の意味の相互関係を明示することに加えて、個々の意味に共通する意味 (スキーマ的意味) を抽出すること、個々の意味を構成要素として含むフレーム⁴⁾を明示すること、多義構造全体における個々の意味の位置付けを示すこと等が課題となる」とし、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という課題を提示している。なお、靱山 (未発表) はこの課題の解決を目指したものとして、「放射状ネットワークモデル」、「スキーマティック・ネットワークモデル」、「フレームに基づくモデル」を統合したモデルを提案しており、「この統合モデルは、放射状ネットワークモデル、スキーマティック・ネットワークモデル、フレームに基づくモデルを統合したものであるから、3つのモデルの優れた点はそのまま継承し、さらにこれらを統合することによって、ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデルである」と述べている。本稿では、この統合モデルを援用して分析を行う⁵⁾。

2. 「のびる」の意味分析

2.1. 「のびる」の意味

本節では、「のびる」について14の多義的別義を認め、考察を行う。

2.1.1. 多義的別義 (1)⁶⁾ : 〈あるものが〉〈引っ張られたり継ぎ足されたりして〉〈長くなる〉

- (1) 紐が {伸びすぎて}、切れそうになる。
- (2) この機械で作った餅はよく {伸びる}。
- (3) 先日、3メートルまで {伸びる} 枝切りはさみを購入した。
- (4) 室内ではアンテナが {伸びて} いても衛星電話が使えない場合があるらしい。
- (5) この犬用のリードは犬が進むと {伸びて}、近づくと巻き取られる仕組みになっている。

別義 (1) は、ゴムやスプリングなどが引っ張られたり、釣り竿などが継ぎ足されたりして、(その長さが) 長くなるということを表す。

2.1.2. 多義的別義(2)：〈曲がったり縮んだりしていた〉〈もの・身体部分が〉〈まっすぐになる〉

- (6) 筋肉痛で腕が {伸びない}。
- (7) この針金は60度の加熱で、まっすぐに {伸びる}。
- (8) 背筋がピンと {伸びて}、とても姿勢が良い。
- (9) 服にアイロンをかけると、どうしてシワが {伸びる} のでしょうか。
- (10) 自転車のサドルが低すぎると、ペダルを漕ぐとき足がしっかり {伸びない}。

別義(1)は「あるものが引っ張られたり、継ぎ足されたりして、長くなる」ということを表すが、この「のびる」は「曲がったり縮んだりしていたものや身体部分に何らかの力が加わってまっすぐになる」ということを表す。一般的に、ゴムや紐などが引っ張られるなどして長くなると、それと同時にまっすぐになる場合が多いと考えられる。逆に、曲がった釘や背筋に何らかの力が加わってまっすぐになると、それと同時に長くなる（長くなったように見える）場合が多いと考えられる。つまり、別義(1)と別義(2)は、時間的に隣接して（同時に）生じるという関係にあると考えられることから、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.3. 多義的別義(3)：〈身体部分・道具が〉〈まっすぐになり〉〈ある対象に近づく〉

- (11) 久しぶりのすき焼きに、次々と箸が {伸びます}。
- (12) 夜道を歩いていたら、いきなり背後から手が {伸びて} きて口を塞がれた。
- (13) マンションの15階まで {伸びる} 消防車のはしごがあるか聞いてみた。
- (14) 店先に焼き立てのパンが並ぶと、次々と手が {伸びて} あっという間に完売してしまった。

別義(2)は「曲がったり縮んだりしていたものや身体部分に何らかの力が加わってまっすぐになる」ということを表しているが、この「のびる」はさらに進んで「(身体部分や道具がまっすぐになることによって)手などの身体部分や道具の先端が、あるものに届くようになる」ということを表している。つまり、別義(2)と別義(3)は原因と結果の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.4. 多義的別義 (4) : 〈厚みのあるものが〉〈薄く広がる〉

- (15) 夏場は塗料がよく {伸びる}。
- (16) この絵の具はよく {伸びる} ので、描きやすい。
- (17) この前買ったファンデーションは、ずっと {伸びて} きれいに仕上がる。
- (18) この麺棒を使うと、パン生地が均等に {伸びる}。

別義 (1) は「あるものが引っ張られたり、継ぎ足されたりして、長くなる」ということを表すが、この「のびる」は「厚みのあるもの（塊状のもの）が薄く広がる」ということを表す。一般的に、厚みのあるものが前後左右の方向に引っ張られるなどして長くなると、結果的に薄く広がる場合が多いと考えられる。つまり、別義 (1) と別義 (4) は原因と結果の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.5. 多義的別義 (5) : 〈身体部分・植物（の一部）が〉〈成長し〉〈長くなったり高くなったりする〉

- (19) 身長が1年で6センチも {伸びた}。
- (20) 夏になると、どんどん枝が {伸びて} くる。
- (21) しばらく見ない間に髪が20センチ以上 {伸びて} いました。
- (22) 「リップクリームを塗るとまつげが {伸びる}」という噂を聞いたことがある。

別義 (5) は、別義 (1) と異なり、問題となる対象物（毛や爪などの身体部分、植物）が引っ張られたり、継ぎ足されたりするというわけではなく、「成長する」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物（の長さ）が長くなる」という点では共通している。つまり、別義 (5) は、別義 (1) からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、「ヒヨコの羽根がだいぶ {伸びて} きた」というように、動物の成長にも用いられる場合がある。

2.1.6. 多義的別義 (6) : 〈能力・業績・記録などが〉〈高まる・向上する〉

- (23) 会社の売り上げがなかなか {伸びない}。
- (24) 近年、外国産牛肉の需要が急激に {伸びて} きた。
- (25) 子供の英語力が高校に入ってぐんぐん {伸びて} きました。
- (26) 連勝記録がどこまで {伸びる} か、楽しみで仕方がない。
- (27) ここ数年、日本を訪れる外国人観光客数が飛躍的に {伸びて} いる。

別義(5)は「毛や爪などの身体部分、植物(具体物)が成長する」ということを表すが、この「のびる」は「能力・業績・勢力(抽象物)が高まる・向上する」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物(の規模)が大きくなる」という点では共通している。つまり、別義(5)と別義(6)は、抽象的な類似性に基づいて意味が成り立っていると考えられる。このことから、別義(6)は、別義(5)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。ここで、別義(5)、別義(6)に共通する意味として、「あるもの(の規模)が大きくなる」というスキーマ(スキーマ②)を抽出することができる。

2.1.7. 多義的別義(7):〈道路・路線などの距離が〉〈長くなる〉

- (28) 来年には、生活道がここまで {伸びて} くる予定である。
- (29) 昨年の秋に、家の近くまで国道が {伸びた} おかげで車通勤が便利になった。
- (30) 札幌まで新幹線が {伸びたら}、ぜひ一度乗ってみたい。
- (31) 山頂付近まで舗装道路が {伸びた} ことで、車でも登れるようになった。

別義(7)は、別義(1)と異なり、問題となる対象物(道路や路線など)に対して、直接力が加わって、引っ張られたり継ぎ足されたりするというわけではなく、「工事などにより道路・路線などの距離が長くなる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力が加わって(その長さが)長くなる」という点では共通している。つまり、別義(7)は、別義(1)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。ここで、別義(1)、別義(5)、別義(7)に共通する意味として、「ある具体物(の長さ)が長くなる」というスキーマ(スキーマ①)を抽出することができる。

2.1.8. 多義的別義(8):〈(主に道路・路線など)線状のものが〉〈長く続く〉

- (32) 小道が山裾に沿って、うねうねと {伸びて} いる。
- (33) 現在、日本の南海上には梅雨前線が長く {伸びて} います。
- (34) 線路を越えると、すぐ左に登山道が {伸びて} いる。
- (35) 金運線とは、薬指から縦に {伸びる} 線のことである。
- (36) 雲の切れ間から {伸びる} 光は、まるでカーテンのようだった。

別義(7)は「工事などにより道路や路線などの距離が長くなる」ということを表しているが、別義(8)はさらに進んで「(距離が長くなった結果)道路や線路などが長く続く」ということを表している。つまり、別義(7)と別義(8)は原因と結果の関係にあるととらえられ、メトニ

ミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、これらの意味は「線状のもの
の延長 (フレーム②)」というフレーム内に位置付けることができる。つまり、「線状のもの (の
距離) が長くなる」というところに注目する場合は別義 (7) となり、「(距離が長くなった結果)
長く続く」というところに注目する場合は別義 (8) となる。

2.1.9. 多義的別義 (9) : 〈時間・期間などが〉〈長くなる〉

- (37) 旅行先で、滞在期間が {延びて} しまった。
- (38) 医療の進歩により、人間の寿命がどんどん {延びて} いる。
- (39) 予定よりも工期が {延びて} しまったため、引越は来月以降になりそうだ。
- (40) 毎月の返済額を少なくし過ぎると、今度は返済期間が {延びて} しまいます。
- (41) 空港でのセキュリティチェックの強化で、搭乗までの待ち時間が年々 {延びて} いるように感じる。

別義 (1) は「ゴムやスプリング、紐 (具体物) などが長くなる」ということを表すが、この「のびる」は「時間や期間 (抽象物) などが長くなる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物が長くなる」という点では共通している。つまり、別義 (9) は別義 (1) と抽象的な類似性に基づいて意味が成り立っていると考えられる。このことから、別義 (9) は、別義 (1) からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、別義 (9) の漢字表記であるが、「時間の延長」を表す場合は「延」を用いることが多い。

2.1.10. 多義的別義 (10) : 〈時間・日時などが〉〈決められていた時より〉〈遅れる〉

- (42) 予定より出発が {延びて} しまった。
- (43) 雨天で試合の開始時間が {延びて} いる。
- (44) 総裁選挙のため、臨時国会の開会が {延びて} いる。
- (45) 「同棲をすると結婚が {延びる}」という話をよく聞く。
- (46) 震災もあって発売時期が {延びました} が、今月20日にやっと発売の運びとなりました。

別義 (9) は「時間や期間などが長くなる」ということを表すが、この「のびる」は「時間や日時などが遅れる」ということを表す。一般的に、ある出来事の開始までの時間が長くなる (延長される) と、必然的に (その開始時間が) 遅くなると考えられる。つまり、別義 (9) と別義 (10) は原因と結果の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立つ

ていると考えられる。なお、これらの意味は「時間の拡張（フレーム③）」というフレーム内に位置付けることができる。つまり、「(時間の) 延長」というところに注目する場合は別義(9)となり、「(時間が延長になった結果) 延期」というところに注目する場合は別義(10)となる。

さて、別義(10)の漢字表記であるが、「時間の延期」を表す場合は「延」を用いることが多い。

2.1.11. 多義的別義(11)：〈(主にスポーツで) 球が〉〈勢いよく〉〈進む〉

- (47) あの選手の左足のキックはよく {伸びる}。
- (48) (テニスで) フォアは問題ないが、バックハンドの球が {伸びない}。
- (49) あのピッチャは手元でグーンと {伸びる} 球を投げってくるから、本当に打ちにくい。
- (50) 最近のゴルフボールはどんどん進化して、アマチュアでも高弾道で {伸びる} 球が打てるようになった。

別義(11)は、別義(1)と異なり、のびる対象となるのは「球(の移動の様子)」である。また、球が引っ張られたり継ぎ足されたりするというわけではなく、「勢いよく前に進む」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力が加わって、(その長さが)長くなる」という点では共通している(抽象的な類似点)。というのは、一般的に、ボールを投げたり打ったりすると、弾道を描くように、遠くへ勢いよく進む場合が多いと考えられるからである。

このことから、別義(11)は、別義(1)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、別義(11)は「あの選手の変化球は {伸びがある}」のように、「伸びがある [ない]」という形でもよく用いられる。

2.1.12. 多義的別義(12)：〈あるものが〉〈時間がたったり古くなったりして〉〈弾力性がなくなる〉

- (51) おそばがすっかり {伸びて} しまった。
- (52) {伸びた} ズボンのゴムを取りかえる。
- (53) 早く食べないと麺が {伸びて} しまうよ。
- (54) {伸びて} しまったセーターやカーディガンの襟や袖を元に戻す方法があるらしい。

別義(1)は「ゴムなどが引っ張られるなどして長くなる」ということを表しているが、この「のびる」はさらに進んで「(例えば、ゴムが長くなった状態が長時間続くことによって) 弾力性がなくなる」ということを表している。つまり、別義(12)は別義(1)と原因と結果の関係に

あるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さて、別義(1)と別義(2)(3)(4)(12)はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「ものの拡張(フレーム①)」というフレーム内に位置付けることができる。まず、「あるものが引っ張られて長くなる」ところに注目する場合は別義(1)となり、「(長くなると同時に)まっすぐになる」というところに注目する場合は別義(2)となる。また、「(あるものが長くなった結果)その先端がある場所に届くようになる」というところに注目する場合は別義(3)となり、「(厚みのあるものが引っ張られるなどして長くなった結果)薄く広がる」というところに注目する場合は別義(4)となる。さらに、「(あるものが引っ張られるなどして長くなり、その状態が長時間続くことによって)弾力性がなくなる」というところに注目する場合は別義(12)となる。

2.1.13. 多義的別義(13): 〈体が〉〈疲労や(相手の)打撃を受けて〉〈動けなくなる〉

- (55) 過労で {伸びて} しまった。
 (56) 暑さにすっかり {伸びて} います。
 (57) 左目に一発食らって {伸びて} しまった。
 (58) 連日の徹夜で、すっかり {伸びて} しまった。

別義(12)は「ゴムや麺類などに弾力性がなくなる」ということを表すが、この「のびる」は「体が疲労や(相手の)打撃を受けて動けなくなる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力が加わって勢いなくなる」という点では共通している。つまり、別義(13)は、別義(12)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。ここで、別義(12)と別義(13)に共通する意味として、〈あるものに何らかの力が加わって勢いなくなる〉というスキーマ(スキーマ④)を抽出することができる。

2.1.14. 多義的別義(14): 〈(主に声楽・音響で)音や声が〉〈力強く〉〈よく響く〉

- (59) 音程が安定し、声も {伸びる} ようになった。
 (60) このスピーカーは高音がよく {伸びる} のが特長だ。
 (61) 先生に「語尾が {伸びる} 話し方はやめなさい」と注意された。
 (62) 電子キーボードのペダルを踏んでいないのに音が {伸びる} 時がある。

別義(1)は「ゴムやスプリング、紐(具体物)などが長くなる」ということを表すが、この「のびる」は「音や声(抽象物)が力強く、よく響く」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力が加わって、(その長さが)長くなる」という点では共通している

(抽象的な類似性に基づく)。というのは、一般的に音や声が力強くてよく響くと、遠くまで届く（聞こえる距離が長くなる）と考えられるからである。このことから、別義(14)は、別義(1)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。ここで、別義(1)、別義(9)、別義(11)、別義(14)に共通する意味として、〈あるもの（の長さ）が長くなる〉というスキーマ（スキーマ③）を抽出することができる。

2.2 「のびる」の多義構造

以上、「のびる」について、14の多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「のびる」は以下のような多義構造を成していると考えられる。

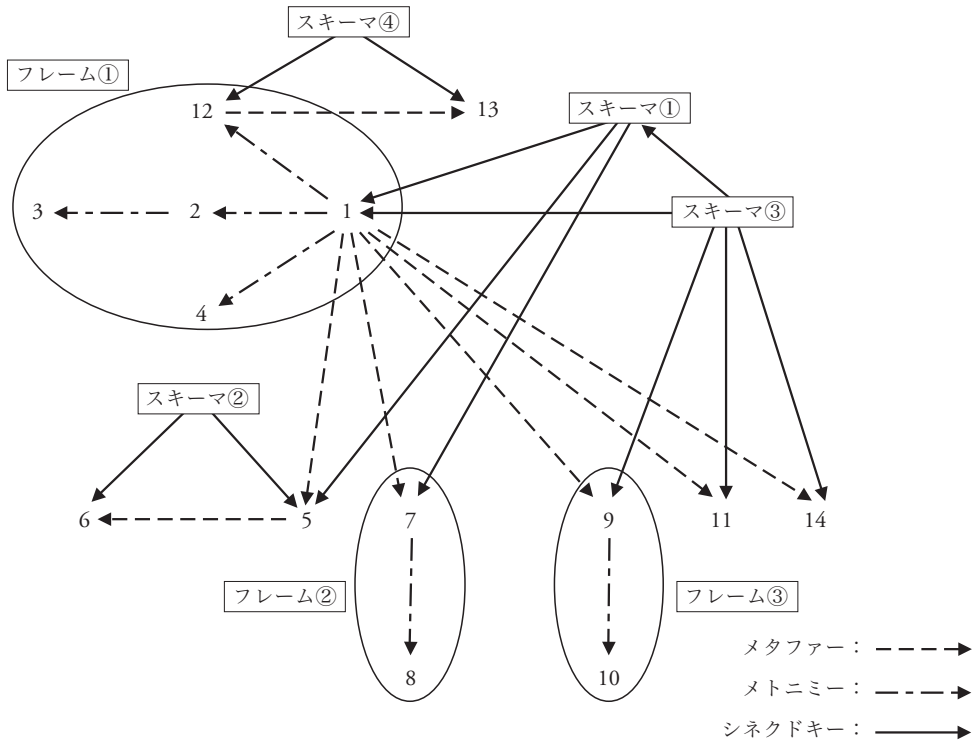


図1 「のびる」の多義構造

以下では、〈図1〉の「のびる」の多義構造の表記について簡略に説明をする。

- (a) 別義(1)と別義(2)(3)(4)(12)はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「ものの拡張」というフレーム内に位置付けることができる（フレーム①）。
- (b) 別義(1)と別義(5)(7)はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈ある具体物

- (の長さ) が長くなる〉というスキーマ (スキーマ①) を抽出することができる。
- (c) 別義 (5) と別義 (6) はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈あるもの (の規模) が大きくなる〉というスキーマ (スキーマ②) を抽出することができる。
- (d) 別義 (7) と別義 (8) はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「線状のものの延長」というフレーム内に位置付けることができる (フレーム②)。
- (e) 別義 (1) と別義 (9)(11)(14) はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈あるもの (の長さ) が長くなる〉というスキーマ (スキーマ③) を抽出することができる。なお、スキーマ①とスキーマ③はシネクドキーの関係にある。つまり、スキーマ③はスキーマ①より高次のスキーマであるということになる。
- (f) 別義 (9) と別義 (10) はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「時間の拡張」というフレーム内に位置付けることができる (フレーム③)。
- (g) 別義 (12) と別義 (13) はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈あるものに何らかの力が加わって勢いがなくなる〉というスキーマ (スキーマ④) を抽出することができる。

3. 日本語教育の観点からの考察——コロケーションの提示と誤用例分析——

本節では、以上の「のびる」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

3.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

〈もの〉が：ゴム、餅、糸、紐、先端、アンテナ、ロープ、ホース、チューブ、リード

〈方向〉に (へ)：下向き、前向き、左、右、上、斜め、上下

〈様態〉：まっすぐ、どンドン、なかなか (～ない)、まだまだ、かなり、一気に

「誤用例」〈もの〉が伸びる

(63) a ×教科書が {伸びる}。

b ○教科書の販売部数が {伸びる}。(別義 (6))

→ (長さが) 長くなることが想定できない (しにくい) 場合は用いられない。

3.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

〈もの〉が：針金、釘、紙のシワ、アーム、コンベアベルト

〈身体部分〉が：腰、シワ、背筋、背中、腕、膝、手、足、両手、両足、体、ひじ

〈様態〉：まっすぐに、びしっと、ぴんと、徐々に、すーっと、全然（～ない）、すっかり

「誤用例」

- (64) a ?目が {伸びる}。
 b ○背筋が {伸びる}。
 c ○視力が {伸びる}。(別義(6))

- (65) a ?鉛筆が {伸びる}。
 b ○曲がったワイヤがまっすぐに {伸びる}。

→まっすぐになることが想定できない（しにくい）場合は用いられない。

3.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

〈身体部分・道具〉が：手、箸、はしご、(クレーンの)アーム、釣り糸

〈位置・地点〉まで：ここ、2階、先端、天井、上部、頂上

〈様態〉：つい、ついつい、簡単に、すぐ、一気に、ゆっくり

「誤用例」〈身体部分〉が伸びる

- (66) a ?画面に顔が {伸びる}。
 b ○画面に顔が {近づく}。
 c ○画面に手が {伸びる}。

→「手」は「曲がる」「伸びる」ということがあるが、「顔」についてはそのようなことは考えられない。

3.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

〈もの〉が：絵の具、塗料、粘土、(パンの)生地、糊、ワックス、ファンデーション

〈様態〉：どんどん、かなり、よく、だんだん、すぐ、なかなか（～ない）

「誤用例」〈もの〉が伸びる

- (67) a ×岩が {伸びる}。
 b ○岩が {砕ける}。

→基本的に、溶けたり柔らかくなったりして、薄く広がるものの場合に用いられる。

3.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

〈身体部分〉が：背、身長、髪、爪、毛、歯、ひげ、まつ毛

〈植物 (の一部)〉が：枝、つる、雑草、芽、根、茎、新芽、幹、花、草木

〈位置・地点〉まで：ここ、この辺、どこ、屋上、屋根、てっぺん

〈状態〉：どンドン、ぐんぐん、さらに、まっすぐ、かなり、まだまだ、すぐ、一気に、なかなか (～ない)、すすすく、あっという間に

「誤用例」

(68) a ? 食べ過ぎて、{伸びて} しまった。

b ○ 食べ過ぎて、{太って} しまった。

→一般的に「食べ過ぎ」が原因で「太る」ことはよくあるが、「(背が) 伸びる [高くなる]」ことはあまりない。

3.6. 多義的別義 (6)

「コロケーション」

〈能力・業績・記録〉が：売上、成績、需要、数、力、学力、輸出、業績、消費、能力、量、記録、販売、生産、利益、収入、所得、得点、経済、実績、台数、事業、数字、税金、GDP、技術

〈時点・時期〉：昨年より、3年前から、前回より、来年から、これから、90年代に比べて

〈理由・原因〉で：様々な理由、円高の影響、値下げの効果、何らかの原因、きっかけ、生活様式の変化

〈状態〉：どンドン、さらに、ぐんぐん、かなり、しっかり、あっという間に、徐々に、年々、急激に、めきめき、確実に、飛躍的に

「誤用例」

(69) a ? 赤字 (幅) が {伸びた}。

b ○ 赤字 (幅) が {増えた}。

c ○ 黒字 (幅) が {伸びた}。

(70) a ? 損失が {伸びた}。

b ○ 損失が {増えた}。

→好ましくない事柄の場合は使われにくい。

3.7. 多義的別義 (7)

「コロケーション」

〈道路・路線〉が：道、道路、線路、路線、鉄道、国道、高速道路、地下鉄、4号線、新幹線、舗装道路

〈位置・場所〉まで：ここ、北海道、函館、九州、日本橋駅、本土、北陸地方、郊外、山頂付近

〈様態〉：少し、かなり、ずいぶん、確かに、いつのまにか、相当
「誤用例」

(71) a ?川が {伸びた}。

b ○川が東の方に {伸びて} いる。(別義(8))

→主に道路・路線などの距離が長くなる場合に用いられる。

3.8. 多義的別義(8)

「コロケーション」

〈もの〉が：登山道、海岸線、道路、参道、廊下、線路、通路、通学路、階段、小道、林道、
街道、梅雨前線、光、ケーブル、金運線

〈方向〉に(へ)：上、下、上方、下方、南北、東西、左右、水平、外、奥、前、後ろ、前
方、後方

〈様態〉：延々と、ずっと、果てしなく、細長く、細く、力強く、勢いよく

「誤用例」〈もの〉が伸びる

(72) a ?玄関が {伸びて} いる。

b ○玄関が {広い}。

→基本的に、線状のものに限られる。

3.9. 多義的別義(9)

「コロケーション」

〈時間・期間〉が：返済期間、滞在期間、寿命、工期、期限、定年、待ち時間、周期

〈時期〉まで：5月、10月中旬、12月末、来年、2020年、65歳

〈理由・原因〉で：大雪の影響、会社側の都合、経済的な理由、家庭の事情、震災の関係、
病気、何らかの原因、不景気

〈様態〉：かなり、さらに、少し、多少、ずいぶん、やや、結構

「誤用例」〈時間〉が延びる

(73) a ?一日の時間が {延びた}。

b ○一日の労働時間が {延びた}。

c ○一日の時間が {長く感じる}。

→一日24時間、一年365日などのように、すでに決まっている時間については用いられない。

3.10. 多義的別義(10)

「コロケーション」

〈時間・日時〉が：出発、結婚、開会、発送日、開始時間、発売時期、入居時期、帰国、帰

還、締切

〈理由・原因〉で：何らかの理由、やむを得ない事情、渋滞、地震の影響、強風、台風、交通事故

〈様態〉：だいぶ、かなり、ちょっとだけ、やや、相当、さらに、少々、多少、ずいぶん、2時間、2週間も

「誤用例」

(74) a ?寝坊して授業が {延びた}。

b ○寝坊して授業に {遅れた [遅刻した]}。

→この「延びる」は、時間 [日時] そのものの開始が遅れる場合に用いられる。

3.11. 多義的別義 (11)

「コロケーション」

〈球〉が：ボール、球、直球、球筋、打球、ストレート

〈様態〉：よく、ぐんぐん、どンドン、勢いよく、もっと、力強く、ぐーんと、なかなか (~ない)

「誤用例」

(75) a ? (野球で) あの選手のバントはよく {伸びる}。

b ○ (野球で) あの選手の打球はよく {伸びる}。

→基本的に、球が勢いよく進む場合に用いられる。

3.12. 多義的別義 (12)

「コロケーション」

〈もの〉が：麺、そば、うどん、ラーメン、パスタ、ゴム、袖口、襟、セーター、ニット

〈様態〉：すっかり、完全に、すぐ、なかなか (~ない)、かなり、ほとんど、ずいぶん

「誤用例」〈もの〉が伸びる

(76) a ×パソコンが {伸びて} しまった。

b ?念珠が {伸びて} しまった。

c ○念珠の紐が {伸びて} しまった。

→基本的に、時間がたったり古くなったりして「弾力性がなくなるもの」の場合に用いられる。

3.13. 多義的別義 (13)

「コロケーション」

〈理由・原因〉：暑さに、過労で、徹夜続きで、残業続きで、疲労で、パンチで

〈様態〉：完全に、すっかり、ぐったり (と)、あっけなく、あっさり、またもや

「誤用例」

- (77) a ×好きな子に「気持ち悪い」と言われて {伸びて} しまった。
 b ○好きな子に「気持ち悪い」と言われて {ショックを受けた}。

→基本的に、肉体的な疲労や打撃などの場合に用いられる。

3.14. 多義的別義 (14)

「コロケーション」

〈音・声〉が：音、声、低音、高音、歌声

〈様態〉：よく、ちゃんと、スーッと、まだまだ、意外と、なかなか（～ない）、まったく（～ない）、全然（～ない）

「誤用例」〈音〉が伸びる

- (78) a ?工事現場の音が {伸びる}。
 b ○工事現場の音が {大きい [うるさい]}。
 c ○バイオリンの音が {伸びる}。

→基本的に、声楽や音響の場合に用いられる。

4. まとめ

以上、本稿では動詞「のびる」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。その結果、「のびる」については14の多義的別義を認定することができた。

また、別義間の関連性については、比喩の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

さらに、初山が提案する「統合モデル（ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデル）」用いて、「のびる」の多義構造を提示した。

最後に、多義語分析の結果に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

附記：本稿は『国立国語研究所基本動詞用法ハンドブック (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)』において、筆者が担当した「のびる」に修正・加筆したものである。

注

- 1) 「のびる」には、「伸」「延」という2種類の漢字表記があるが、「のびる」の意味の違い(多義的別義)に厳密に対応しているとは言えない場合がある。これについて、初山(1994)では、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「1つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めている。本稿においても、漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。
- 2) 国広(1982: 97)は、多義語について『多義語(polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 3) 「隣接性」「関連性」については、様々なケースが考えられるが、ここでは3点を例として示す。
- 4) 初山(2017: 4)は、野村(2013)、Fillmore(1982, 1985)などの諸研究を踏まえ、フレームについて次のように定義している。
フレームは百科事典的意味観に基づくものであり、語(等の言語表現)の意味の基盤となる背景的知識である。その背景的知識は、経験がスキーマ化・理想化されたものであるとともに、構造化されており、長期記憶に蓄えられている。さらに、ある語(等の言語表現)があるフレームを喚起し、そのフレームのある構成要素あるいは要素間の関係を焦点化する。
- 5) 初山(2001)は多義語分析の課題として、(1)(それぞれ確立した)複数の意味の認定(2)プロトタイプの意味の認定(3)複数の意味の相互関係の明示(4)複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明という4つの課題をあげている。本稿では(3)と(4)の課題を中心に検討する。
- 6) 本稿では別義①を「のびる」のプロトタイプの意味として考える。ただし、初山(未発表)が「ある多義語のプロトタイプの意味は1つとは限らない」と指摘しているように、「のびる」のプロトタイプの意味の認定についてはさらに検討が必要である。なお、初山(2002: 107)は、多義語のプロトタイプの意味は「複数の意味のなかで最も基本的なもののことであり、基本的であるということは、最も確立されている、中立的なコンテクストで最も活性化されやすい(想起されやすい)といった特徴を有する」と説明している。

参考文献

- 北原保雄(2011)『明鏡国語辞典』第3版, 大修館書店。
 国広哲弥(1982)『意味論の方法』, 大修館書店。
 新村 出(編)(2008)『広辞苑』第6版, 岩波書店。
 野村益寛(2013)「フレーム(frame)」辻 幸夫(編)『新編 認知言語学キーワード事典』, p. 317, 研究社。
 松村 明(編)(2006)『大辞林』第3版, 三省堂。
 初山洋介(1994)「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp. 65-90, 名古屋大学留学生センター。
 初山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1, pp. 29-58, ひつじ書房。
 初山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』, 研究社。
 初山洋介・深田 智(2003)「第3章 意味の拡張」松本 曜編『認知意味論』, pp. 73-134, 大修館書店。
 初山洋介(2010)『認知言語学入門』, 研究社。
 初山洋介(2015)「多義語の多様性と位置づけ」, 第150回現代日本語学研究会ハンドアウト。
 初山洋介(2017)「フレーム・現象素・メトニミーをめぐって」, 第166回現代日本語学研究会ハンドアウト。
 初山洋介(未発表)『多義語の研究(仮題)』。
 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』, 角川書店。
 森山 新(編著)(2012)『日本語多義語学習辞典 動詞編』, アルク。

- 山田忠雄・柴田 武他(編)(2012)『新明解国語辞典』第6版,三省堂.
Fillmore, C. J. (1982) “Frame Semantics.” *Linguistics in the Morning Calm*. pp. 111–137. Seoul: Hanshin Publishing.
Fillmore, C. J. (1985) “Frames and the Semantics of Understanding.” *Quaderni di Semantica* 6. pp. 222–254.
Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar* (Vol. 1). Stanford: Stanford University Press.

例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- (1) NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)
- (2) KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

キーワード：多義語、多義構造、比喩表現、コロケーション

AbstractThe Polysemic Structure of *Nobiru*

LEE Tackung

This text described the multiple meanings of the verb *nobiru* in addition to discussing the relation between these multiple meanings (the polysemic structure). Resultantly, it was acknowledged that there were fourteen equivocal different meanings acknowledged for *nobiru*.

Furthermore, the relation between the different meanings was considered by looking at the two types of symbolic language, metaphor and metonymy, and it was thus possible to clarify the relation among the different meanings.

Moreover, based on the results of a polysemy analysis, the research considered a method for effectively teaching people to learn all these different meanings. Specifically, a collocation for each different meaning was presented to promote learning, after which the examples of misuse that could be expected for each separate meaning were also presented and the causes and reasons for the misuse examined.

Keywords: polysemic word, polysemic structure, metaphorical expression, collocation